

# 弘前藩日記目録 (六)

弘前藩政史研究会編

延宝四年七月 小

月番

進藤庄兵衛

一 壬午日 巳刻雨降止及酉刻

1 左右江門登城、討頭

2 御座向に於て、一門、重臣の礼を請く

3 唐平屋主江門加増

4 書院に於て月岡の礼、以下、雜目 祝言等の御礼 (七)

5 文書院へ菓子を

6 銅山鈴木参兵江に目録

7 表御座向に於て鷹の獲物の二汁七菜の料理、一門、重臣相伴

二 癸未日 晦 夜雨

1 式日 寄合

2 式日 論語

3 浅出 (文書院) より手紙

4 素庵へ菓子と手紙

5 鷹の獲物

6 浅出へ使者

7 何年の如く、厩で在々の駒改

三 甲申日 陽 夜中雨

1 小座敷に於て、素庵へ二汁七菜、一門、医師相伴、

諸、拍子組 (二)

2 去月十日江戸発の荷物下着

重臣等の死亡年月日、菩提寺等

四 乙酉日 晦

1 須藤惣右江門へ必須派見分を仰出す

五 丙戌日 此子刻大風雨及今巳刻

1 昨夜の大風につき、一門、家を警戒に詰める、その他香記帳

2 仏殿にて参礼

3 5 5 長崎寺へ参参 (三)

6 主馬病氣、御尋ねの使者 (他一)

8 文書院へ機嫌院の使者

9 岩木川洪水につき見分仰付ける (他一)

11 昨夜の大風、青森無事の報告あり

六 丁亥日 晦

1 庄右江門へ書物、その他を遣す

2 西馬場にて馬御覽

3 鷹の獲物

4 5 6 養生願等 (三)

7 主膳組楊庭太右江門儀、進藤太右江門に差合ひ、名

を替え願えども、土佐守様より直に下され候名故、

改め申向敷旨申渡す

8. 笠原八郎兵衛、病氣故、目付役赦免願

9. 新壁村八幡宮の橋破損、修理申付く

10. 鹿ヶ沢の医師の家屋敷の地子米赦免

11. 山先の清左江内、同歩蘭請、余力なく出桶の故、二

百俵下さるを申渡す

12. 鉄炮指南出精申すべきよう仰出す

13. 宗端の灵前に、しんちゆらの燈籠を報恩寺へ、戒名

、年号は正阿弥刻む

14. 佐藤権左江内に茅葺奉行申渡す

15. 18. 延宝三、四年の作事所につき(四)

言七ヶ所御入用銀八十四貫九百文

16. 外ヶ浜清五郎、孫四郎二人斬罪

17. 押一室茶屋孫四郎筆舎赦免(二)

18. 成子曰 曉

1. 浪虫へ七夕祝儀の極嫌宛

2. 在右江内登城、対願

3. 諸御礼、母並の通り(他二)

6. 諸座敷ニ之間に於て、中小姓、小知行以下の御礼披

曉(他二)

9. 庵井龍登守領分、石州津和野、六月二日大地震、城

中、家中、町屋破損、人少々死

10. 久渡寺より御守札

11. 鷹の獲物素槍へ、迄礼(二)、(他二)

八己五日 曉

1. 江戸へ飛脚

2. 寄合所へ各、出座

3. 昨日の式日論議(他二)

6. 酒井左江内の材木船一艘、今四日大風に逢い、本戸

村で破損、十四人中六人死、八人同村肝煎に罷在

7. 諸米船四六、石種啼吠炭され深浦にて米半分を打捨

ての由、深浦横目より

8. 津輕左京の材木船、勝元中にて大嵐のため難儀、十

三材木奉行援助(他一)

10. 直三龜主水、七才にて去月廿七日死去(他一)

11. 鷹の獲物(他一)

九庚寅日 曉

1. 久保田銀法御宿若狭屋三三左江内、勝手御宿奇藤左

以兵衛来る 並右江内、主兵衛宅にて対面の上、銀

子五枚下さる旨申渡す

2. 眞桑瓜を久冒院へ

十辛卯日 曉

1. 御米八百石積船、亀田領松ヶ崎にて破損、その処置

を申渡す

2. 近江様へ端午の御祝儀

3. 大内蔵病儀、松山玄三を遣す

4. 成田蔵右江内、今度御書物振行奉行仰付けらる

5. 鷹の獲物

6. 久昌院より生駒

十一 壬辰日 陽

1. 橋雲寺、國土寺より御守札 (他一)

2. 書院毛廬に於て内田蔵右衛門普詞

4. 右の後、板行師長兵衛、吉兵衛、鹿牛甚右衛門宅にて普詞

5. 6. 素庵へ何年の通り、銀子十枚 (二)

7. 鷹の獲物

8. 寺沢玄素、当番失念の儀、差図ないうち、奉公延引を申渡す (他一)

十二 癸巳日 陽

1. 式日 寄合

2. 式日 論語

3. 4. 久昌院、浅虫より出籠

5. 鷹の獲物

6. 7. 8. 久昌院着座

十三 甲午日 雨

1. 並申御用無き旨見合の上、退去を仰出す

2. 主馬息女死去

3. 久昌院へ使者

4. 百沢寺より御守札

5. 台所横目津坂与五左衛門等、普詞

6. 玄蕃、外記、帶刀、左内、弥右衛門、北村万千代の

忌救免の所、主馬息女死去につき明日登城也す

7. 8. 盆中法事、長勝寺・慶壽寺の張掛等

十四 乙未日 陽

1. 仏殿にて祭礼 (他一)

3. 5. 6. 長勝へ仏詣 (四)

7. 報恩寺、長勝寺法事無事相済

8. 文渡寺より御守札

十五 丙申日 陽 昨五刻雨及仰刻

1. 何年の通り諸御礼なし (他一)

3. 久昌院へ

4. 5. 久昌院、長勝寺・報恩寺へ仏参

6. 景勝院より御守札

7. 秋本太左衛門、分判石大小三十二付付通り並上ぐ

8. 越後守田本船、十三にて破損

9. 12 米船遭難の件 (四)

13. 弥右衛門病長李腹登城 (他二)

十六 丁酉日 陽

1. 5. 8. 久昌院の誕生祝、三才十菜、一内相伴、終つて

書院にて諸

十七 戊戌日 仰刻雨及午刻夜中雨

1. 式日 寄合

2. 式日 論語

3. 久昌院へ

4. 主馬病長、御事の使者

5. 当三日より風合漏村より大向越の向、常々鳴動相聞え

当月九日地震三度ある由、深浦村へ神事申付く  
十八日亥日 終日大雨

1. 御座向に於て吉村堀左江内へ加増百石(他大)

7. 首派寺へ晴雨祭修行すべき旨書札を

8. 清江半右江内以下九人へ兵法相伝への儀、御前にて

誓詞

9. 牧太多右江内家来助蔵不届につぎ追放

十九日 卯 陽

1. 御座敷老中前にて一町田理兵江以下誓詞

2. 中の口寄合詰所にて成田蔵右江内手付小知行組頭古

川平を江内誓詞

3. 藤士跡右江内以下三人江戸より下着

4. 獲物を玄蕃等へ達す

5. 武藏全書諸談(他一)

7. 国上寺より御守札

廿五日 辰巳刻大雨雷聲卯刻山鳴

1. 3. 去九日江戸参の飛脚三人下着(三)

4. 又昌院へ

廿一日 陽

1. 朝食後跡右江内を召出す

2. 又昌院へ

3. 右のついでに、津輕屋幽貞并侍九兵江二人、玄向土

の向縁臨北向、御目見

4. 素庵へ口上書一通

廿二癸卯日 卯刻雨

1. 式日寄合

2. 式日詰語

3. 明日の能について書院の掃除、飾付申渡す

4. 渡辺清右江内七周忌法事につぎ香奠銀子三枚、同御

礼

5. 又昌院より使者

6. 最勝院より御守札

7. 素庵、庄右江内へ口上書各一通

8. 又昌院へ

9. 明日の能の登城の面々、玄蕃より老中迄刀をさし玄

向より入べし、内記、十左江内以下は刀を聚束

に持たせ差置くべき由、定立又右江内を以て所出

寸

右一内老中の刀置所、中小姓二人番を

廿三甲辰日 昨卯刻雨及今午刻

1. 江戸へ飛脚

2. 江戸の夕世大和守、他へ贈物

3. 9. 御能、一内、家老着座(七)

10. 11. 能を終え、夫々料理(三)

12. 14. 同右御礼(三)

15. 17. 能中の張番等(三)

廿四丁巳日 晴戌刻雨

1. 鷹の獲物(他一)

又昌院へ(他一)

又、若江半右衛門等に夕食相伴を

(内記より口上書

廿三日午日 晦

1. 仏葬に於て祭礼

2. 報恩寺へ仏参(四)

3. 檀越寺より御守札

4. 又昌院へ兼子

5. 兼て仰付けのさくけ等郡奉行より

6. 龜屋市十郎、弟兵十郎養子の件

7. 成田蔵右衛門、宿遠き故明屋敷を借りる件

8. 報恩寺より水瓜三

廿六丁未日 晦

1. 主膳研の二十七回忌法事、香奠銀子三枚

2. 又昌院より使者

3. 鷹の獲物

4. 又昌院へ庄右衛門へ(三)

5. 石山岳大夫病死、跡式を同氏勘之丞にせがれ伊之助を

養子にして半知をのみとせ

6. 伴嘉津之巫師の縁組許可

7. 石川村三七、喧嘩にて殺人の故斬首

8. 相馬村五郎、盗により籠、それを抜け逃げ手にあま

り打首めし由

9. 葛西太左衛門家末長兵衛不届につき碓ヶ岡より越山

廿七戌申日 雨卯刻南山鳴

1. 式日寄合

2. 式日論語

3. 主膳組工藤之兵衛、玄須派の役人申付候間、役所の

用を須藤惣右衛門へ申付く

4. 又昌院の獲物

5. 成田長左衛門等夕食相伴を(他二)

廿八己酉日 陽

1. 庄右衛門より対顔

2. 諸士御礼

3. 書院に於て題目御礼

4. 話座敷一の直に於て初目見の者三

5. 同じく名猪御礼三

6. 同じく祝言御礼一

7. 庄兵衛組竹原勘助庵居、跡式願許可

8. 深浦貞口親吉に仰付けた神楽の托宣書差上ぐ

9. 比利支丹改之目録當年は御上成せられざる年の由申

上ぐ

廿九庚戌日 終日雨

1. 又昌院へ、夢切を召す、直に報恩寺へ(三)

2. 最勝院、百沢寺より御守札

延宝四年八月 大

一辛亥日 卯刻雨及午刻

月番 北村孫右衛門

1. 左右江門まり付願

2. 掃刀病氣本腹登城

3. 4御座向、書院詰座敷二の向にて一門、重臣、家臣

の礼をうく(二)

5. 夕食後、書院に於て論

二士子日 賜

1. 式日 寄合

2. 式日 論語

3. 百深寺より昨日山上奥の院参詣の報告

4. 去月廿一日江戸参の飛脚下着、御甚様御不向の義に

ついて飛脚を登す

5. 左右江門へ二才五系、相伴は亦右江門他、終つて西

馬場にて馬御覧

6. 鷹の獲物

三 癸丑日 (天候記入なし)

1. 5. 3 出稽の家臣に銀子、帷子を下さる(三)

4. 鉄炮金具屋作之卒病死、悼幼少なるも、家族の者不

便につき五人扶持二十俵下さる

5. 叔多太右江門派見分のため明日外々決へ

6. 御坊主葛西宗説屋敷へ愛之生之差上ぐ

右祝儀のため、米二俵、昆布二疋、塩割二尺下

さる

7. 外崎嘉右江門筋気につき湯治暇下さる

8. 父昌院へ

9. 添田儀左江門等へ夕食の相伴を

10. 主馬病氣、見舞の菓子等

11. 父昌院より使者

四 甲寅日 昨戌刻雨迄今申上刻

1. 添田儀左江門、文保田市郎を江門、山中大左江門、

村山七左江門、須藤惣右江門、

右五人、御用の筋の特別扱い

2. 玄番等一門の奉与力、老臣の与力名義を勲臣奉行す

で提出のこと

五 乙卯日 賜 酉刻蒙

1. 仏龕にて祭礼

2. 奉庵、左右江門へ明日の能の案内

3. 父昌院

4. 左右江門能案内の御礼

六 丙辰日 兩 卯下刻御能初之

1. 書院西御縁御座中、父昌院、伝左江門・十左江門・

藤九郎内室

2. 書院菊の向、奉庵、左右江門、小屏風の屯の向に及

ぶ

3. 一門、老中、物頭、物奉行、御手廻以下去月廿三日

の通り、番組一干下刻相済

4. 御座向にて父昌院へ二才七系、右三人の内室相伴

5. 書院に於て奉庵、左右江門等二才五系

6. 詰座敷にて重臣へ料理(三)

8. 張番如例

七丁巳日 (天候記入なし)

1. 式日寄合

2. 式日論語

3. 久昌院へ

4. 圓上寺、久渡寺より御守札

5. 主馬へ病氣見舞

6. 育木源兵江の湯治願許可

7. 月次飛脚、九日振江戸着にて登す

八戌午日 (天候記入なし)

1. 主馬へ病氣見舞

2. 去月廿日江戸発の御納戸荷下着

3. 6. 主馬、本日死去(四)

7. 8. 小うに高声、井柏子方御家中御阿三日之間停止(三)

9. 山中六左征町退明登城

九己未日 (天候記入なし)

1. 平八郎百々日法事・封春院にて

2. 長泉院へも使者

3. 4. 報恩寺にて主馬の葬礼(二)

5. 木村伊右征内子忠右征内鐘熟練の所、病氣故十分養生するよう使者

十庚申日 (天候記入なし)

1. 久昌院より平八郎百々日法事につき使者(他一)

十一辛酉日 (天候記入なし)

1. 久昌院へ

十二壬戌日 (天候記入なし)

1. 奉應へ使者

2. 式日寄合

3. 式日論語

4. 久昌院より菓子

5. 同御札の使者

6. 今日精進を解かれる

7. 御徳樂町預茂右征内屋敷に雲芝、祝儀前の置り

8. 殊右征内手作のほうふーはじめて実をなし、着上ぐ

十三癸亥日 (天候記入なし)

1. 久昌院へ

2. 百沢寺、口上寺より御守札

3. 或田守左征内外四名御目見(他一)

十四甲子日 (天候記入なし)

1. 八幡、新屋、結岡より酒を差上ぐ

2. 久昌院より使者

3. 最勝院、橋聖寺、久渡寺より御守札

4. 小島主税の湯治願許可

5. 明日の御礼延引仰出す

十五乙丑日 (天候記入なし)

1. 江戸へ飛脚

2. 五日江戸発の飛脚、到着、御躰様御不拘御大切の由

3. 右につき黒土弥兵江、十一日振江戸着にて差足仰付

く

4. 六日江戸路の龜脚跡丑刻下着、御臺様去五日、遷前  
5. 家中、町、寺社惣録へ、今日より五日向、躍、鳴物  
等並慮之儀、小知行組頭へ申融さす

6. 年頭の御太刀銀、馬代一技、端午帷子三内草物一、  
重陽の小袖二、歳暮小袖二、京都役人相調、毎全、  
近江様へ進めるよう仰出す

7. 重陽の祝儀、小袖二、山鹿甚五左江付へ進めるよう  
飛脚を登す

十六兩費日 丑刻雨及巳刻

1. 文昌院へ

2. 御臺様薨去にのき機嫌窺いに老中直使者として、傍  
島主水を今朝登足さす

3. 打越甚五左江付に近江江戸へ使者として殆足させる  
ので支度を下命

4. 岩木山御堂宮小破の由百沢寺より注進、先例の通り  
新しく造営、十四日出束上り供養料を嘉例の通り

5. 家庵へ使者

6. 次太夫へ病長御尋ね

7. 文昌院へ使者、菓子を

裏坂間江罷通者之覚

8. 御物頭、御物奉行御礼日着座之面々御医者御茶道

9. 御作事奉行御手廻

10. 御大箱戸 山田彦兵江

日御日記役 工藤次兵江

右二人御役相勤候中

12. 御振舞之節御料理頭同手付之者

13. 兼平兵右江付、小見山元益、山田清左江付

14. 御手廻、近江御田裏板向に罷通候節御番愛江相折之

15. 小袖一重、近江様へ

十七日卯日 昨夜雨 庵

1. 式日寄合

2. 式日論語

3. 文昌院へ使者

4. 初畦一尺、麿ヶ沢の運師より

十八日辰日 庵

1. 文昌院へ

2. 御臺様法事に香奠を、打越常左江付を登す

3. 渡江孫五右江付の湯治願を許可(他一)

5. 6. 初畦の料理相伴(ニ)

7. 寒沢等の鉾山より出銀、祝儀三十俵を

十九日巳日 庵

1. 畦一尺、板屋野木より

廿一日 庵、夜中大雨洪水

1. 平八郎、主馬両組、玄蕃の差回を受けるように申上

す

廿一日 未日 昨酉刻雨及今未刻

1. 次郎市の与力十人中一人不足補充



2、庄右江内登城対顔

3、久昌院より使者

4、次木夫痛平庵へ登城

5、進藤三郎兵江他二名の湯治眼願許可

廿二日 申日 庵

1、久昌院へ使者

2、長泉院へ進物

3、式日寄合

4、式日論落(他一)

6、玄蕃等、明日冠明、登城するよう申達す

7、通殺に久昌院、源八病氣治療蘭折につき当月御番差

引くようにと

廿三 癸酉日 賜

1、久昌院へ

2、青葉子一鉢、中畑八之丞より

3、十一日振江戸着の飛脚二名を登す

4、御庭前馬場の普請、掃除は知行に依じて人を出すこ

と

5、武者屯の後の堀、土手の修理も百石につき役歩三人

出すこと

右の通り、城中は家中より、在々は土民、町は古

来より相定めの人足を出して修理をするよう、

6、家中の出金、戎合の請衆役を申付く

廿四 甲戌日 辰刻蒙未刻同

1、久昌院へ

2、明日の廟参延引、吉第方へ申達す

3、唐牛樵大夫へ切米金十兩三人扶持下さる旨、老中

詰所に於て又右江内、甚右江内罷出申渡す(他一)

5、夕食に庄右江内、元益、玄三相伴

6、華秀寺普替奉行、大沢角右江内、百田玄次兵江、中

之口寄合詰所に於て誓詞

廿五 乙亥日 庵

1、久昌院へ

2、午刻西馬場へ

廿六 丙子日 庵

1、鷹の獲物

2、握井御内跡御直習南之坊より申出家融通念仏血脉之致

奎加度由以報恩寺申立之儀、先規により当領堅禁止

之向、不應其意申渡す

3、熊野実宝院より書付之旨

一筆監達候、熊野殿本千手堂建立につき、戦様

へ祈禱の札守上り、更に、各分國へ廻るにつき万

事頼入ります

母々宮

実宝院印判

名衆判

二月二日

回國諸先達中に参

右使僧室住院上下四人大行院所江参着、奉加之儀申立も、融通念仏の例に準じて返す

4、木村空之助へ百石加増

5、御細工者以下三十三通の書類を書改めるよう申付く

6、横町通百石町通の後より和徳町田道の両方に三十人の小頭を一ヶ所に差置くため屋敷下これ度々申出を許す

廿七丁丑日 (天候記事なし)

1、久昌院へ

2、久昌院より使者

3、式日寄合

4、式日誦語

5、庄右江門へ書簡

6、7、鷹の獲物

8、棟方十左江門明屋鋪、表二十二向、裏二十五向、村

山七左江門屋敷替頼の通り申渡す(他二)

11、庄兵江青森へ

廿八戌辰日 夜雨

1、月例の諸御礼

2、昨日の初産鷹一居、御献上のため鷹師等を登す

3、薩九郎病氣本腹登城

4、久昌院へ

5、内記かり庭前の大庭差上ぐ

廿九己卯日 晴

1、門脇慶庵へ仰付の御案禮、三宮黒焼直伯へ渡けおく  
廿辰辰日 晴

1、久昌院へ

2、3、鷹の獲物を素庵へ、同御礼(二)

4、夕食に次太夫、内記、薩九郎、玄三、山田清左江門相伴

5、西馬場に於て物頭、物奉行、半廻中の役馬御覧

(大)

役馬出之覧

11、16、清江半右江門以下二十六名(大)

延宝四年九月 小

一辛巳日 午刻風及申刻

月番 渡辺次太夫

1、庄右江門と対顔

2、一内、老中の御礼を受く

3、5、諸士の御礼

6、外記の知行加増

7、知行の書出下付

8、玄向に於て、本参、新地諸扶持方切水の者御礼

9、午下刻、弥右江門宅へ

10、勝手へ結めた小姓頭等へ舞舞

11、江戸よりの御納戸荷物到着

12、八朔日の御奉書

13、御台様の法事

14、平蔵より御城廿中へ御機嫌伺い

二壬午日 辰刻雨及申刻

1、藤九郎内室へ進物

2、式日寄合

3、玄須御派三ヶ所裁判の改め

4、式日論語

5、りんぎぼしを命ず

6、初雁買上げを命ず

三癸未日 辰刻風雨及酉刻

1、2、久昌院へ重陽の進物

3、鶴一居御覧

4、初雁料理

四甲申日 申刻雨

1、2、久昌院と素庵へ茶を進上

3、石両者より御礼

4、久昌院へお出かけ

5、長勝寺御廟参の次才改め

6、木立勘十郎の頼を許す

五乙酉日 昨夜岩木山初雪

1、仏殿祭礼の供

2、5、長勝寺廟参の供の現式

6、左右征門より進物

7、唐牛与右征門登城

六丙戌日 初霜

1、久昌院より使者

2、野崎十大夫、梨を進上

3、今晚茶の口切

4、正右征門御礼のため登城

5、鶴存と進上

6、藩士の隠居許可

7、藩士の跡目相続を許可

8、養子許可

9、桂林院（信義の正室）の番人へ長屋貸与

10、藩士の殿親を許可

11、破損奉行二名のところ、一名増員

12、料理人長谷川某の老年退職を記す

13、大森、十腰内、伝馬派の並屋敷の年貢赦免

七丁亥日 霜陽

1、式日寄合

2、藩士らの誓詞

3、式日論語

4、久昌院へお出かけ

5、料理人上原某病死

6、料理上達者へ金子二兩

7、唐牛与右征門登城

八戊子日（以下天候記事なし）

1、病後の御礼について

2、黄鷹一居披露

3 舊領(永どう)献上

4 舊鷹二居献上

九月五日

1 庄右江門と対顔

2 諸御礼

3 足輕の張番年頭の様式の如し

4 一門方より内記へ進物

5 久昌院より

6 久昌院へ

7 庄兵江登城

8 畦黒焼の献上

9 鶏など献上

10 鷹二居献上

十度寅日

1 久昌院へ使者

2 鶏を庄右江門へ献上

3 同じく玄蕃へ許可

4 藩士の病氣湯治を許可

5 成田七郎右江門、病長本腰登城

6 鷄一居鷄一居御覧

7 棟方八五郎、産公よく加増

8 破損奉行の増賃

9 藩士の湯治願を許可

10 久昌院へお出かけ

17 御所抑献

18 料理人へ褒美

十一辛卯日

1 久昌院より使者

2 久昌院へ

3 庄右江門より返書

4 舊の鶏など献上

5 最勝院破損の修理を命ず

6 牧太多右江門の郡奉行赦免の願、不承知

7 米船破損につき酒田へ青礮平右江門を派遣し此處歸着

8 外決の蟹田沖出材木、御蔵銀で直入に命ず

9 中村春庵跡目下着

10 松山玄三伯母忌

十二壬辰日

1 式日寄合

2 式日論語

3 鶏を献上

4 江戸よりの荷物下着

5 高蔵院へ平蔵より香奠

6 吉日十八日、上野において高蔵院の法事、平蔵より

おあこ殿へ菓子進上

7 猿樂町当米代金の納期について、幕府より唐書

十三癸巳日

1 五兵江の新宅へお出かけ

2. 末ノ上刻北の郭へ、その後、五兵征宅を訪問
3. 御台様置例につき巡査した使者歸着

4. 黄鷹一居進上

十四甲午日

1. 伝説にて祭礼

2. 4. 長勝寺へ廟参

5. 須藤惣右征門、鳴海与右征門相聚候差合有り

十五乙未日

1. 5. 諸士御礼

6. 素着より庄右征門へ御馳走

7. 泡盛酒を下さすよう命ず

8. 鷹の鶏を献上

9. 木村伊右征門ら湯治許可

十六丙申日

1. 江戸へ飛脚

2. 岡文左征門病氣本腹し登城

3. 物頭らの弓を明日御覧

十七丁酉日

1. 式日寄合

2. 式日論語

3. 久昌院へ

4. 狂言師らの扶持を決定

5. 備前屋へ歳米十俵支給

7. 10. 巳刻西馬場において物頭らの射法御覧

附、的中者の覽

十八戊戌日

1. 主膳の病氣見舞

2. 鷹の鶏を外記等へ

3. 久昌院へ

4. 藩主の訪問後の亭主の御礼登城について

十九己亥日

1. 主膳、病氣本腹登城

2. 家中の諸士組付支配方役人等の折帳出来(目録控)

3. 献上の黄鷹二居を登す

4. 傍島主水、江戸より下着

5. 御台所横目、五日死時番で勤務

6. 渡辺嘉兵衛、病氣本腹

7. 須藤惣右征門、足明登城

廿庚子日

1. 葡萄、袖進上

2. 手廻の者の剣術、役馬を近日中に御覧の旨

3. 西馬場にて鉄炮御覧

廿一辛丑日

1. 御蔵横目、御蔵奉行を数年精勤した者十二人に褒美

2. 井上玄斎に上方への出向を許可

3. 大蔵蔵へ病氣見舞

4. 久昌院へ

廿二壬寅日

1. 式日寄合

2. 式日論議

3. 小見山元益の寒い中の長髪を認む

廿三癸卯日

1. 5. 次大夫へ主馬の跡組を命ず

4. 北の邸へ

5. 鷹の鷲を進上

6. 種土菜へ湯治許可

廿四甲辰日

1. 文昌院へ使者

2. 本村奎之助の移転祝として箱肴等下さる

3. 郡奉行より、大小十一本並上げる

4. 次大夫の誓詞

5. 本村奎之助、新宅移転の祝儀進上

6. 8. 御手先の鉄炮打を小次大岡野で御覧

7. 長勝寺、新恩寺へ茶を遣わす

10. 儀左江門の上野より帰る

廿五乙巳日

1. 仏殿にて祭礼

2. 4. 新恩寺へ仏参

5. 湯治の許可

6. 茶直習いについて

廿六丙午日

1. 江戸へ飛脚

2. 縁組願の許可

3. 左門、御機嫌伺いに登城

4. 玄蕃より捕進上

5. 7. 小次大岡野の鉄炮の手廻に對し御礼

廿七丁未日

1. 式日寄合

2. 式日論議

3. 松前より江戸への鷹等運送について

4. 長泉院へ使者

5. 主馬内室へ使者

6. 右の御礼に次大夫登城

7. 鷹の鷲進上

8. 榑方十左江門の新宅へお出かけ（祝儀の目録）

10. 右の御礼に十左江門登城

廿八戊申日

1. 恒何の御礼

2. 庄右江門と対願

3. 打越常左江門、樽代進上

4. 文昌院へ

5. 病長湯治の許可

6. 精進日を除いて、西北の邸での烏打を許す

廿九己酉日

1. 仏殿にて祭礼

2. 長勝寺へお出かけ

3. 右の御礼として長晴寺より参上

4. 田山勝左江門、病兵平庵

5. 主馬殿遺物、長泉院より進上

6. 深浦より上磯まで騷動あり、代官より注進

延宝四年十月 小 一庚戌日

1. 了諸士の御礼

4. 久昌院へ

5. 午刻、西馬場において責馬

6. 片桐主膳へ書状

7. 弘前米通切手出役人を任命

二辛亥日 未刻雨

1. 式日寄合

2. 式日論語

3. 家柿の進上あり

4. 中納言らへ黄鷹一尾進上

5. 酒井雅樂頭へ書状

6. 堀伝左江門内室へ鶏

7. 申刻、庄右江門と対顔

8. 鶏の献上

9. 玄猪の御祝終つて残り物頂戴

三壬子日 昨未刻雨及今申刻

1. 左須五所河原附近の惣絵図、寛文四年の写一画

2. 久昌院より使者

3. 郊右江門より柿進上

4. 中村春庵下着

四癸丑日 雨

1. 江戸よりの飛脚到着

2. 平野丹波守の奥様死去の旨申来る

3. 直教手前の茶を召上る

4. 門前慶庵へ黒焼を注文

五甲寅日 晴

1. 仏殿にて祭礼

2. 久昌院へ京柿

3. 麻から灰百十一かます出表

4. 5. 6. 青森に二日曇時分より疾風暴風雨、大水

7. 浅瀬石川の橋流失

六乙卯日 卯刻雨及未刻

1. 久昌院と主膳宅へ

2. 3. 4. 塩釜等の献上、酒井雅樂頭等へ贈物（四三）

45. 横内村八左江門より不届故に追次

七丙辰日 晴

1. 主膳登城

2. 式日寄合

3. 式日論語

4. 庄兵江青森へ出向

5. 玄蕃ら夕食相伴

6. 西郷并武善毛之向土手並柵ノ木普請

十月七日まで延入足三千九百五十八人

八丁巳日 晦

1、久昌院へ

九戊午日 晦

1、江戸へ飛脚出発

2、宝樹槐様二十五回忌御法事

3、御座間において庄右江内ら相伴

4、公方様より射二十枚拜領

5、増上寺焼失の由

6、庄右江内へ京柿二十進上

7、久昌院へ使者

8、深浦向口観音堂における神衆相濟す

十二未日 要

1、御一内方以下登城して祝詞

2、平蔵様御肴物拜領に対する祝詞

3、堀内二人江戸へ登る

4、久昌院より料理

5、平蔵様御肴物御拜領のため御祝詞

十一辰辰日 初雪

1、平蔵様御肴物御拜領のため御祝詞

2、久昌院へ着進上

4、々渡寺より御札

5、藩士の湯治許可

6、吉村場左江内、金山より帰る

7、深浦の観音堂で神衆執行、託宣を差上ぐ

8、9、公方様より拜領の御肴で料理

10、料理の都合に

終って能衆

11、庄右江内頭痛

十二辛巳日 晦

1、式日奇合

2、式日論語

3、久昌院へ

十三壬午日 晦 未刻地震

1、隠居、跡目の許可

2、弥右江内殊病死

3、中川小隼人へ御召小袖

十四癸未日 晦夜雨

1、仏殿において祭礼

2、江戸よりの飛脚到着

十五甲申日 晦夜雨

1、庄右江内と対顔

2、恒例の御札

3、羽黒山在左延命院御目見

4、在左御進物の寛

5、5、延命院登城

8、久昌院へ

9、最勝院、国上寺より御守札



十六日 晴 陽終夜雨

1. 羽右衛門、尾御免、登城

2. 文昌院へ使者

3. 羽、弓、鉄炮の演習のため小沢大岡野へ

4. 文昌院へ使者

5. 文昌院への使者の通路について

6. 藩士の改名許可

十七日 晴 日刻雨降

1. 式日寄合

2. 式工二人の誓詞

3. 式日論語

4. 庄兵衛登城

5. 藩士の改名許可

十八日 晴 陽

1. 勘定所役人の任命替え

2. 3. 定軽、弓、鉄炮の演習に対する賞賜

4. 文昌院へ

5. 6. 拜領の蒙御小袖、簪文院へ

7. 外記、御札の登城

十九日 晴 晴

1. 小見山元益危子金保、江戸で御目見

2. 3. 4. 小沢大岡野へ

5. 西決より初鍾

廿日 晴 陽

1. 文昌院へ

2. 御田守中、左右江門へ御出

3. 4. 5. 藩士の跡目相続の許可

6. 敦賀へ飛脚として小知行二人出立

7. 江戸詰勘定役交替

8. 津輕屋へ扶持金を支給

9. 藩士の口論し、殺害に及んだ者の処分

廿一日 晴 陰西刻雨及亥刻

1. 柳引孫次郎へ百兩織を下さる

2. 3. 4. 青森洪水の際の功勞者へ米を褒美として支給

5. 文昌院へ使者

6. 藩士の相統許可

7. 斬罪役人の帰参

8. 関係者の知行没収(二十日の、参照)

9. 鳴右衛門の差の処分はなし

10. 左右江門へ手紙

廿二日 晴 朝水降

1. 式日寄合

2. 式日論語

3. 銀山より始めて銀子十貫目調入の五捨献上

廿三日 晴 晴

1. 文昌院へ

2. 飛脚三人江戸へ出発

3. 西馬場にて馬を御覧

4. 今晚初鰯の御料理

5. 鷹二層を登す

廿四癸巳日 晦

1. 廿六日能仰出され書付の寛(二〇)

廿五甲午日 晦

1. 仏殿で祭礼

2. 5. 4. 報恩寺へ仏参

5. 素庵より使者

6. 西馬場へ

廿六乙未日 晦

1. 2. 能を演ず

番組一覽

3. 5. 役者への下され物の寛(十五)

1. 江戸より荷物到着

廿七丙申日 晦夜雪

1. 式日寄合

2. 式日寄語

3. 郊右江内ら登城(御機嫌伺い)

4. 素庵より御礼の使者

5. 文昌院へ使者

廿八丁酉日 晦

1. 恒何の御礼

2. 文昌院へ

3. 川原田由右江内へ前髪取を許可

廿九戌戌日 晦夜雨

1. 仏殿で祭礼

2. 藩士の願出(相統・役銀見)を許可

3. 苗守御用の帳面を御覧

延宝四年十一月 大

月番 北村弥右江内

一. 己卯日 申刻雨及終夜

1. 庄右江内と対顔

2. 恒礼の諸士御礼

3. 左右

4. 文昌院へ

5. 庄右江内へ置わされる所の文庫の所持者

6. 庭園にて料理御覧

7. 西馬場へ

8. 十三村木奉行の者の赦免(勤務による)

9. 銀山商売屋敷諸色運上の扱ひ方について

10. 不行跡の藩士(半足韋)を斬罪

11. 本城廻掃除の者を切米五十文同一人扶持で召抱える

12. 深奥の納入量の報告

13. 当流の弟子入りを許可

14. 跡式の許可

15. 西馬場にて馬を御覧

二庚辰日 昨夜雪及三寸許

1. 文昌院へ使者

三、式日聯合

三、式日論語

三、幸日 晦

1、文書院より使者

2、5、夜替の寛(四)

6、鴨の献上

7、与力高橋、文大夫の下人、稻を盗み、斬罪

8、龜甲町十兵衛の下人も同罪で斬罪

9、稲垣信濃守より進ぜられた松茸などで料理

10、改名の許可

延命院口上(寺修理のための勧進について)

四、壬午日 晦

1、藩士の誓詞

2、藩士、婚姻につき相書を弄す

3、年頭の使者に溝江半右衛門を任命

4、文書院へ

五、癸未日 晦

1、秘殿にて祭礼

2、西馬場にて馬事訓練

3、軍用銀の預り人について

六、甲申日 雪

1、江戸へ飛脚二人出立

2、文書院へ

3、鷹の真鴨等を献上

4、夜更御番について

5、次大夫を明年江戸へ召連れる旨

6、猿、狐殺生禁止令を郡中へ送れる

七、乙酉日 雪

1、式日聯合

2、式日論語

3、東庵へ鷹の鴨を

八、丙戌日 晦

1、華鷹五郎を登す

2、江戸より飛脚到着

3、文書院へ

九、丁亥日 晴

1、鷹の小鴨一、十左衛門方へ

2、唐牛の妹、中川小庵人方へ湯組

3、藩士の跡式許可

末春御供の書出天々申渡の寛

4、藩士病死で知行没収

5、おのぶ銀座屋立ての寛之助、出精につき米を支給

6、杉捨目越仕候、付当役の中役米分十俵充て給

7、二の郭の蔵に焼ける御定書を水立平左衛門へ渡す

十、戊子日 晴

1、文書院へ

2、主右衛門へ手紙

3、隠居による藤目相続の許可

十、按太多石江内の役屋敷の使用につき指示  
十一日丑日 晴

1、又昌院へ使者

2、鷹の鶴を献上

3、明日の能につき仰出の寛

4、又昌院お出での在めの持待見獲り役人

5、足輕置所見獲り役人

6、書院御用役人

7、表詣事見獲り役人

8、書院にて見物の場所

十二庚寅日 晴

1、辰上朝御能初文

2、昌院以下普座

3、所詣御能組

任意

4、又昌院へ料理

5、又昌院へ使者

6、北の丸にて祈禱

7、江中より鷹師下着

8、江戸より中小姓下着

十三辛卯日 雪

1、又昌院へ

2、寄合あり出座

3、最勝院等へ博奕禁止の布令

十四壬辰日 雪霽

1、仏殿にて祭祀

2、外記へ使者

3、帶刀りへ使者

4、御札の次才

十五癸巳日 昨夜雪晴

1、恒例の諸士御札

2、諸士の増廻

3、諸士へ知行

4、能目、新地士の任命

5、御目見

6、扇子箱の進上

7、8、本参、新地士の目見

9、安堵銀の差上げ

10、諸士の名替

11、16、屋敷替

17、辰刻、八幡宮へ御参詣

18、終つて最勝院へ寄る

19、往還の通訪

20、張番について

21、八幡宮御参詣の節、鳥獸の他魚類の料理を止むる  
べき旨

22、最勝院後塙の修理につき、作事奉行へ下命

23、同上寺、袋宮寺の守札を進上

24 鷹の小鴨を献上

25 江戸よりの飛脚到着

26 鷹の真鴨等進上

十六甲午日 晦

1. 白酒献上

2. 秦毫へ沓盛進上

3. 次郎市の風気見舞

十七乙未日 晦

1. 3. 東照宮参詣、帰路久昌院へ

4. 最勝院、橋雲寺より御守札

十八丙申日 晦

1. 久昌院より

2. 3. 藩士の置養子縁組許可

4. 年頭の使者派遣

十九丁酉日 晦

1. 次郎市病氣本腹

2. 久保田市郎左江門眼病平癒

3. 主馬の百ヶ日の法事

4. 久昌院へ

5. 屋敷首

6. 山田清左江門へ着差上ぐ

廿戊戌日 昨夜雨及今巳刻

1. 御機嫌奉伺

2. 庄右江門登城

3. 長泉院へ鯉二

4. 外記へ進物

5. 歩行目付、無調注のかどで扶持没収

廿一己亥日 晦

1. 3. 4. 久昌へ

5. 昆布三把、弄清川野方へ登す

6. 鷹のあいに一羽献上

7. 松前兵庫、江戸へ登す鷹十八連、着岸

8. 3. 江戸兼平で追鳥狩、出勤人員、捕獲数など

廿二庚子日 晦

1. 式日参合

2. 式日論語

廿三辛酉日 午未刻雨風変異

1. 久昌院へ

2. 外記の病氣平癒

3. 献上品の目録

4. 飛脚三人、江戸へ登す

5. 追鳥狩の雄子料理

廿四壬寅日 晦

1. 久昌院へ使者

廿五癸卯日 夜雪及八寸許

1. 仏殿にて参礼

2. 久昌院より使者

3. 3. 6. 報恩寺へ仏参

7. 5. 去年、鷲の日、茶目に背いた者に対する処分を  
裁免

廿六甲辰日 晦

1. 能脚二人、江戸へ出発

2. 縁組の許可

3. 名替の許可

4. 5. 玄蕃の新宅へ

廿七乙巳日 晦

1. 外記の子息へ見舞の使者

2. 式日寄合

3. 式日論語

4. 西馬場へ

5. 晩の膳のおと能の見物を命ず

廿八丙午日 晦夜酉

1. 2. 恒例の御礼

3. 玄蕃院へ

4. 鷹の鳥を玄昌院、素庵らへ遣わす

廿九丁未日 晦

1. 仏殿にて祭礼

2. 一町田半六の家来不届のかどで追放

世成申日 昼雪

1. 5. 鷹の鳥を帶刀らへ遣わす

一 二 四日 昨夜雪及、一尺許

1. 恒例の御礼

2. 3. 4. 諸士御目見

5. 最勝院、百派寺より御守札

6. 唐牛与右江門の家来不届のかどで追放

7. 8. 御膳手座敷などの当番へ夜食

二 申戌日 昼雪

1. 式日寄合

2. 式日論語

3. 熊野神宮の墨の表替

4. 鶴の果焼を献上せしむ

5. 江戸にて町内伝右江門死去の報あり

6. 次大夫より白酒一樽

7. 佐竹右京大夫の使者到着

8. 使者を添遣

三 辛亥日 晦

1. 鷹の鴨を献上

2. 重陽の内書到着

3. 久保田よりの使者と対面

4. 鷹の鴨を遣わさる

5. 右使者へ小袖下さる

延宝四年十二月 小

月番

渡四次大夫

〔荒井清明・蝦名康一・小笠原三・佐藤仁・  
宮崎道生〕